

企業交流会を開催 17



プレゼント交換の様子

7月14日（金）、2019年以来となる企業交流会をWORLD BEER TERMINAL KAENを会場に開催しました。企業人同士の親睦をはかること、新たな社会貢献への協働の可能性を考えること、協会活動のさらなる活性化を目指すこと等が目的。10企業・団体から19名が参加しました。それぞれが持ち寄った品を使ったプレゼント交換では、各企業に関するプレゼントもあれば、手作りの品、神戸土産や福岡土産もあり、あちらこちらで喜びの声が上がっていました。

YMCA国際・チャリティーランに参加 3 11

障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが共に幸せに生きていける社会をめざして全国で開催されている今大会。第7回熊本大会は2022年11月27日（日）に益城町総合運動公園でオープニングランを開催。その後12月4日（日）までの8日間は参加者それぞれが走った距離をオンラインで申告し、総勢660名が走りました。YMCAフィランソロピー協会からは幹事企業による「YMCAフィランソロピー協会 幹事企業 Team!!」、肥後銀行青婦人部連絡協議会の「繋」が参加。大会を盛り上げました。※2023年は11月26日（日）に益城町で開催。お申込みは11月22日まで。



フェアトレードを推進 10



発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じて途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「フェアトレード」。2023年度もクリスマスとバレンタインデーに合わせてフェアトレード商品を販売しました。

使用済み切手収集活動 3

YMCAフィランソロピー協会は、公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）が取り組む使用済み切手収集運動に協力しています。集まった使用済み切手は、収集家の協力により換金され、JOCSがアジアやアフリカで行う保健医療協力のために役立てられます。

会員企業

税理士法人 近代経営

熊本銀行

熊本トヨタ自動車

熊本日日新聞

益城野印刷所

TAKATA PAPER PRODUCTS

NTT西日本

肥後銀行

RICOH リコージャパン株式会社

（以上、幹事企業）

社会医療法人愛育会福田病院

株式会社エフエム熊本

株式会社紙弘

亀井通産株式会社

九州産業交通ホールディングス株式会社

九州電力株式会社熊本支店

九州旅客鉄道株式会社 熊本支社

九州労働金庫熊本県本部

株式会社熊本県民テレビ

熊本第一信用金庫

熊本電気鉄道株式会社

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社熊本南支店

株式会社スーブル

株式会社テレビ熊本

東光石油株式会社

富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

三菱オートリース株式会社九州営業部熊本営業所

有限会社ゆうしん

（27社 2023年9月1日現在）

YMCAフィランソロピー協会

Philanthropy Newsletter

企業と人の社会貢献

YMCAフィランソロピー協会は、よろこびあえる未来を実現するためにシゴト*とまちに笑顔を広げる活動に取り組みます。

*私事から志事（社会貢献）へ



No.77
2023

4年ぶりにチャリティボウリング大会を開催 協会活動のさらなる活性化を目指して



①チャリティボウリング大会 ②新入社員ボランティア入門講座 ③企業交流会 ④子ども食堂贈呈式

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

YMCAフィランソロピー協会はSDGsを推進するとともに、本会に集う人たちのおもいをひとつにして、社会貢献活動に取り組んでまいります。

CONTENTS

チャリティボウリング大会
年次総会 新入社員ボランティア入門講座
フィランソロピーセミナー 企業交流会
YMCA国際・チャリティーラン
フェアトレード推進 使用済み切手収集

フィランソロピーとは、ギリシャ語の「人間愛」という言葉に由来し、人間愛にあふれる社会を目指す、企業の社会貢献活動を表す言葉として用いられています。

Philanthropy
Newsletter



YMCA フィランソロピー協会 事務局：公益財団法人熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
E-mail: ymca.philanthropy@gmail.com
https://www.kumamoto-ymca.or.jp/philanthropy/

ニュースレター No.77

編集：YMCAフィランソロピー協会事務局
印刷：株式会社城野印刷所
発行：2023年10月



よろこびあえる未来を

YMCA Philanthropic Association

子ども食堂支援のために チャリティボウリング大会 2

6月2日（金）、チャリティボウリング大会を4年ぶりに開催しました。18回目となる今回は子ども食堂の子どもたちの支援を目的とし、8企業・団体から14チーム、56名が参加。2ゲームをプレイしました。ボウリング大会の参加費やストライクごとに個人が100円を募金する「チャリティストライク募金」で約6万円の益金が得られました。

- 会場：namcoワンダーシティ南熊本店 ワンダーボウル
- 参加企業・団体：亀井通産、近代経営、熊本銀行、城野印刷所、西日本電信電話熊本支店、肥後銀行、リコージャパン熊本支社、熊本YMCA



前回優勝の亀井通産チームによる始球式



チャリティストライク募金



写真中央奥が穴井智子さん

大会益金をもとに、お菓子やお米、レトルト食品等をそろえ、7月6日（木）に贈呈式を行いました。2月にフィランソロピーセミナーの講師を務めた穴井智子さん（同ページ左下に関連記事）が運営する子ども・地域食堂「だんだん食堂」を訪問。ボウリング大会で優勝した会員企業のリコージャパン（株）熊本支社がプレゼンターを務めました。寄贈品は穴井さんが役員を務める「一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク」を通して、子どもたちのために役立てられます。

共に学び合い地域のために企業が出来る事を考える

子ども食堂の現状と課題から考える 「子どもたちの貧困を助けるために 企業人ができること」 1 2

■日程：2023年2月8日（水） ■会場：熊本YMCA本館

■参加者：20名

一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワークの役員で自身も子ども食堂を運営する穴井智子さんを迎えて講演会を開催しました。これまでの活動内容と利用者の様子、そして子ども食堂の枠を超えた居場所づくりの取組みについて説明がなされ、「思いやりのある社会になるように」と願いが語られました。



アフターコロナのコミュニケーション術 ～企業人に求められるつながり方とは～ 8

■日程：2023年5月17日（水） ■会場：肥後銀行北熊本支店

■参加者：31名

アルファマホールディングス株式会社代表取締役で全米NLP（神経言語プログラミング）協会認定トレーナーである佐藤拓司さんを講師に招き開催。佐藤さんは、自分と他人は違うと理解する大切さを述べ、「新しい人たちとつながることで人間の成長があります」と参加者らに語りかけました。



ともにSDGsの推進を 年次総会 17

2022年10月14日（金）に2023年度の年次総会を開催。2022年度事業報告、決算、会計監査の報告と「SDGsの推進」などを謳った2023年度の運営方針、予算と幹事企業の提案がなされ、すべての議案が議決されました。年次総会に続き「今、あきらかになる熊本城の真実～熊本地震復興の足跡をたどる～」をテーマに講演会を開催。熊本城調査研究センターの嘉村哲也さんが緻密な復興作業の様子を紹介しました。講演会後は食事をとりながら互いに自己紹介をする時間も持たれ、会員企業相互の親睦が深められました。

■会場：KKRホテル熊本

■参加企業・団体：紙弘、近代経営、熊本銀行、熊本トヨタ自動車、熊本日日新聞社、コカ・コーラボトラーズジャパン、城野印刷所、TAKATA PAPER PRODUCTS、西日本電信電話熊本支店、肥後銀行、ゆうしん、リコージャパン熊本支社、熊本YMCA



自分と異なる立場を理解する ボランティア入門講座 3 11

企業人のボランティア精神を育む最初の機会として、障がい者の自立を支援するNPO法人「ヒューマンネットワーク熊本」から障がいのある講師を迎えて行う企業合同研修会を4月4日（火）、4月6日（木）に開催。車いすの乗車体験と高齢者疑似体験を実施しました。

車いすで街の中を走行した参加者たちは、わずかな傾斜や段差による不便さを感じていました。高齢者疑似体験では膝や肘、腰が伸ばしにくくなる専用のスーツを着用。思い通りに体が動かせない大変さを感じている様子でした。参加者からは、「身体が不自由であることで、身体的だけでなく、精神的な負担もあると感じた」「だれでも暮らしやすい社会にしていきたい」などの感想が寄せられました。

■会場：熊本YMCA本館

■参加企業・団体：近代経営、熊本トヨタ自動車、西日本電信電話熊本支店、岩永組、野田市電子、熊本YMCA



フィランソロピーセミナー

事例から学ぶ 今、企業が取り組むSDGs 11 12 13

■日程：2023年9月6日（水） ■会場：リコージャパン（株）熊本支社

■参加者：20名

2社が自社のSDGs推進活動について報告した後、質疑応答が行われました。株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、全国で展開する具体的な取組みを紹介。産業廃棄物処分業・収集運搬業などを行う大東商事株式会社からは、環境型ビジネスを形成するための協業を進めていくことの大切さ等が語られました。

